

1. 学校名 対象(学年、人数) 中野西高等学校 ESD 珈琲倶楽部 38名

2. 探求課題・活動実践の概要、ねらい、目標等

(1)活動名 ONE COFFEE TO THE WORLD …麦ストロー制作

(2)目 標 ①コーヒーを通してフェアトレードの理念を広め、農家さんに公正な対価を払うことにより、豆の質の保証、教育の保証に貢献する。

②コーヒーを通して関連する課題に目を向け、多角的視点から SDGs 目標を達成する。

(3)ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

多様性 (多種多様な現象が起きていること)

公平性 (一人ひとりを大切に)

相互性 (関わりあっている)

連携性 (互いに連携・協力すること)

有限性 (限りがある)

責任制 (責任を持って)

その他 ()

②育成する資質・能力

批判的に考える力

他者と協力する力

未来像を予測して計画を立てる力

つながりを尊重する態度

多面的・総合的に考える力

進んで参加する態度

コミュニケーションを行う力

(4)関連する SDG s



- 1, 貧困をなくそう
4, 質の高い教育をみんなに
10, 人や国の不平等をなくそう
12, つくる責任、つかう責任
14, 海の豊かさを守ろう

(5)探究課題・活動実践の概要

◆問題の所在 フェアトレードを広めるコーヒー販売において使用する資材がプラスチックであること

◆探究の目的 飲料販売で使用するプラスチック製品を持続可能な製品に変える

◆先行研究 珈琲農家の調査、飲料販売用品における脱プラ製品の調査、マイクロプラスチックが海洋生物や人体に及ぼす影響について調べる

◆実験・調査方法

①新潟海水浴場におけるプラスチックごみの現状調査、砂の採取

②ストロー制作

③次年度に向けた反省、手順のまとめ、種の管理等

◆結果

・種上から収穫までは肥沃でない土地でも育ったこと、水やりなどの手入れが必要ないことから、被災地などの復興につながる。

・一から手作りしたことで、販売次にお客様からの反応が多くあったことから、脱プラの選択肢として麦ストローを広めることができた。

・収穫後からストローにするまでの作業に手間がかかるため、市場販売価格が高いことがわかった。

◆今後の課題

・企業で広く使われるための大量生産方法と持続可能性のあり方を探究する必要がある。

・紙ストローの使用で脱プラをかなえる企業と消費者意識とのギャップを埋める必要がある。(紙ストローは焼却の際、二酸化炭素を排出し温暖化に貢献してしまうことを認識すること。)

3. 流れ(指導計画の概略)

R3. 12月 長沼地区復興支援として麦ストロー制作を行っている方のご指導を受けて、種まき

R4. 7月 収穫、長さを揃えて切る、ワタ取り、煮沸消毒、乾燥の手順でストロー完成

R4. 7月 イベント販売で使用

R4. 1,2月 発表 マイプロジェクト、信州 ESD コンソーシアム

4. 効果・反応・所感

フェアトレードの理念を広めるために、オリジナルブレンドの開発・販売と実践してきたが、実践を通して「気が付いてしまった」新たな課題を一つ一つ考え、更なる実践を通して、問題を解決できることを体験している。また、実践しっぱなしではなく、いくつかの発表会に参加することで、部員たちが自ら振り返り、自分の言葉で探究を深めている姿がある。「探究を通して探究している」「結果が成功に終わらなくてもいいんだ、それが探究だとおもう」と、1年生の言葉として出てきたことに驚いた。また、活動を継続することで地域への周知が広まり、イベントや共同開発などのお声がけをいただいている。

5. 指導方法・体制の工夫(協力者や資源)

協力者: ①オリジナルブレンドの開発・・・丸山珈琲 丸山健太郎社長

②ストロー制作: ふぞろいのストロープロジェクト・・・塚田真由さん

③イベント出店: おごっそフェア・・・中野市商工会青年部